OB会だより
京外大能楽部
OB会発行
第8号

"二十周年外大能に参加して"

♡大滝隆子(51年卒)♡

20周年外大能無事成功おめでとうございます。私が退部して5年になるのかしら。子供を先生の楽屋にあずかって頂いて、連吟にも参加できました。

声？　もちろん出ません。ただ自声の大きな声だけ出してきました。

ほんの数分の出演にすぎませんが、前からハラハラ・ソワソワ・まるで現役時以上の緊張。中庭であまりさわぎすぎて、現役文がんに苦笑されるーまつ。卒業以来、精神年令ピタッと止まっている私にとって、OGのみなさまとごいっしょできるこの今年は連盟会長さんがいらっしゃるんですぬ。少しお話がしたかったけれど、とうとうバタバタして機会がありませんでした。

私達の時は、何の為の連盟参加なのか、という所から、何い直さねばならない程の無関心さでした。いい今、会長を出す位になったなんてうれしいですね。

男性部員も増えたんですぬ。せるが為、時もそれなりによかったけれど、やはり活気ではらがいがありますぬ。個人の差にも、他校にふれてほしい。とりあえず影響を受けてほしい。

それを自分の物、当うつぶの物にとり入れるかどうかは別として……。

そう思います。

今年も、にのもしい限りの外大能でした。

"二十周年外大能に参加して"

♡大塚友彦(54年卒)♡

卒業してから早二年が過ぎようとしています。最近、特に「時間の貴重さ」を改めて痛感しております。

さりとて特別に忙しいのですが一日二十四時間ではないのですが、生活の時間自分の思い通りの行動がとれず、自分の工夫が目下、自分の課題で有ります。

今になって自分の学生時代に随分時間を浪費していたことが悔やまれます。

いろいろなことが悔やまれますが、一つながら学生という身分は「時間」を曲がりなりにも統けていたとも言える。

部員達とも年に二、三回会う機会があります。能楽部の現役の方々が貴重な時間をそれぞれ有意義に有効に使っている姿をみて、うらやましく思う一方、私自身反省させられる面が多々見いだされます。

良い刺激を与えてくれます。

「自演会」でありますしょう。

幸いにも卒業以来二度にわたり舞台から拝見することができ、その度に現役部員の気迫に圧倒されるばかりでありました。特に昨年の自演会では一回生諸君が舞台から下りてきた!?どうでーにーながら着気ごんだ僕の装束を着けまーたが、汗で顔をクチャクチャにして聞いて、その気迫に圧倒されたことが現在でも誠に印象的であります。

考えてみるに役等の日常の生活での時間観念はおそらく在会人のうちみると想像もつかない程余裕のあるものであります。

ーながら、そういう生活の中でも自分の時間に凝縮されて、活動の積み重ねが、教時間「自演会」という形で発表されるところに価値があるのだと思われます。

もちろんそこには、ばらーい自演会だったと言うにふさわしい、すばらしい能まで、二回生の仕事から、四回生の能まで、その一回一回に「力強さ」が一貫していました。

舞台には「今日はとても気持ちよく舞えまーた」

"二十周年外大能に参加して"

♡大塚友彦(54年卒)♡

卒業してから早二年が過ぎようとしています。最近、特に「時間の貴重さ」を改めて痛感しております。

さりとて特別に忙しいというわけではないのですが一日二十四時間ではなく、生活の時間自分の思い通りの行動がとれず、区分の工夫が目下、自分の課題で有ります。

今になって自分の学生時代に随分時間を浪費していたことが悔やまれます。

いろいろなことが悔やまれますが、一つながら学生という身分は「時間」を曲がりなりにも統けていたとも言える。

部員達とも年に二、三回会う機会があります。能楽部の現役の方々が貴重な時間をそれぞれ有意義に有効に使っている姿をみて、うらやましく思う一方、私自身反省させられる面が多々見いだされます。

良い刺激を与えてくれます。

「自演会」でありますしょう。

幸いにも卒業以来二度にわたり舞台から拝見することができ、その度に現役部員の気迫に圧倒されるばかりでありました。特に昨年の自演会では一回生諸君が舞台から下りてきた!?どうでーにーながら着気ごんだ僕の装束を着けまーたが、汗で顔をクチャクチャにして聞いて、その気迫に圧倒されたことが現在でも誠に印象的であります。

考えてみるに役等の日常の生活での時間観念はおそらく在会人のうちみると想像もつかない程余裕のあるものであります。

ーながら、そういう生活の中でも自分の時間に凝縮されて、活動の積み重ねが、教時間「自演会」という形で発表されるところに価値があるのだと思われます。

もちろんそこには、ばらーい自演会だったと言うにふさわしい、すばらしい能まで、二回生の仕事から、四回生の能まで、その一回一回に「力強さ」が一貫していました。

舞台には「今日はとても気持ちよく舞えまーた」

"二十周年外大能に参加してー"

♡島谷直美(53年卒)♡

昨年の「二十周年外大能」では、OB連吟と、"羽衣"の舞囃子に参加させて頂きまーた。"能"とは全く縁することのない、育児を家事に追われる日々を送っていた私にとって、自演会の当日は言うまでもなく、現役さん達と共に、みけいこさせて頂いた日々は、とてもすばらしい刺激を与えてくれました。

現役の方、一人一人が真剣に"能"と"クラブ"とにぶつかってゆく姿は、忘れがたい感激を私の胸に今でも、きざみ込んでくれています。

その男力が報われ、「二十周年外大能」は、まるで、ひと一輪の小さな花のつぼみが、事に開花ーたと言うにふさわしい、すばらしい自演会だったと思います。

一回生の仕事から、四回生の能まで、その一回一回に「力強さ」が一貫していまーた。

舞台には「今日はとても気持ちよく舞えまーた」

と、本当にうれしそうに話して下さった。二回生の方の言葉は今でも忘れられず、その言葉の中に、今急の外大能楽部の頼もしい姿を見たようで、とてもうれしく思っています。

気構や、練習量や、研究の程度その他すべての面で、私の考えなどは現役の方々には到底およぶことができませんでしたが生来、不真面目ともいえ、自演会に参加したことも良い経験を積ませて頂いたと思っています。

又、OB連吟では、赤ちゃんと一緒に参加された大阪さんと、根雪らずのハリキリボーイの大家君と女にをはりあげ、現役時代に逆戻りしたような錯覚を覚えました。ただ一つ、少し観客がさみしく、あの現役達の舞台をもっと大勢の人達に見せてあげたかったと、その事が残念で仕方がありません。OB会ででも、その面での協力を考えてみることも必要のような気がします。

今年は二十一年目を迎える外大能楽部。先輩の方々の伝統を守りつつ、大きく大きく羽ばたいてゆくことを念じながら、ペンを置きます。



"演能を終えて"

♡主原春江(S.56卒)

昨年12月6日、創部20周年記念"外大能"という、華々しい場に於て、「田村」を舞せて頂けたということは、私にとって、非常に喜ばしくも、苦しいものでした。何故なら、能が舞えることの喜びと、20年という伝統の重圧とが表裏一体となって、私を包み込んでいたからです。しかし、諸先輩方が励ましにこにこと思いますと、力が体に満ちてきて、"よし!やってやるぞ!"という気持ちにはりきりました。汗は吹き出しながら、そんな気持ちは初めてでした。

足はがくがくと震え、汗は吹き出し心拍数は何倍にもなり、幕が上って橋掛りを出た時など気絶寸前で、"ほんまに大丈夫やろうか?"と案じていたのを遠くに見えるようにしていたものです。なにぶん、気を取り直して来たんやから、今までのを全て出しつくそう。"と思ったのですが、止メ拍子を"踏んだ時、"終った!!"と叫びたいほどの安堵感でした。"ここで忘れてはいけない"と思いますが、最後までと思いますが、どうもありがとうございました。

四年間の能楽部での活動は、喜怒哀楽に富み、すばらしい先輩や後輩に恵まれたものでした。能楽部に籍を置いたからこそ出来たのも、能のすばらしさを知ったのも、先生にとりまいても僕にとっても来の悪い、憶えの悪い教えるのも面倒を見てあげるのも、たまご焼きを食べるのも、全てが良い思い出です。

そして、僕も現役を退き、社会人となってOB諸氏の仲間入りするのですが、この四年間の経験や演能の経験はこれからの僕にとって非常にプラスになってゆくと思います。

最後に、僕をこれまで支えて下さった先生、先輩諸氏に、感謝の気持を表すことばを知らず、ただ、ありがとうございましたと申し上げて、筆を置きます。

"一年間を振り返って"

♡森中泰久(前部長)♡

一年間の部長任期を終え、色々と思いますが、この一年間を振り返ってみたいと思います。

部長になった当初一番の問題点はなんといっても少人数ということでありました。特に春合宿では、4人という淋しい合宿で、なにかむなしい思いをしたものでした。しかしこれが新歌への大きな励みとなり、私自身自分のもっているすべてをぶつけて新入生にあたろうと決意したのです。これはみんな同じだったと思います。

幸いにも、多数の新人を入れることができ、新しい能楽部としてスタートすることができたのです。当初、上回生と下回生の人数のアンバランスで、まとうこともありましたが、しばらくすると活動も順調に行くようになりました。

しかし外大能の慣習にとりかかる7月頃から、一人減り、二人減りと連鎖反応的に部員がやめるようになり、最終的には9人に落ち着いたのです。これが後の部員の動員にひびき、全員が団結しなければならない時期にきていたのです。

記念すべき外大能に向って取り組むようになったのですが、人数が減れば当然みんなの負担が重くなるのは目のみはるものがありました。一回生のがんばりにより全員がんばり、特に一回生の力は大きなものがありました。ここで忘れてはいけないのが磯道先生の熱心な指導ということです。技術面だけでなく、運営面や心がまえなど一人一人のことを考えて下さいました。

そして外大能当日を迎え、それぞれが立派な舞台を務め、無事成功いたしました。ただ反省点という問題点がありましたが、これはこれからの課題にしていきたいと思います。

一年を振り返ってみて表面的にはある程度しっかりしたようにはなりましたが、まだまだ多くの問題点を含んでいます。これらを一人一人が自覚し、一つ一つ解決していき、より魅力ある能楽部にしてゆかなければならないと思う次第です。

最後になりましたが、外大能に多額の援助金、そして立派な袴を頂戴し、大変ありがとうございましたと思います。

○奥田圭一(部長)○

勿論・皆さんが感じられてきたことであろうが・我々がうづ活動に費やすことのできる時間は年間に限られている。その日からそを迎えた今・やかり・如何にも短いという気がする。その年間に・ねにを把むかは当人次第であろうが・うづとしてのコミニケーションは大切にしていきたい。

過日ある先輩に伺ったこと・つまり技術を伝えていくことが活動の主であるというづの性質上・それ自体が排他的になりがちであり・繋がりを為すりをも蔑ろにしてきたのではないかということば・重みをもってきた。実際・自分の知る範囲だけでも辞める人は多い。技術ばかりが先行してしまい・どこか物らぬ間に・人を追い込んでしまう傾向があるようだ。

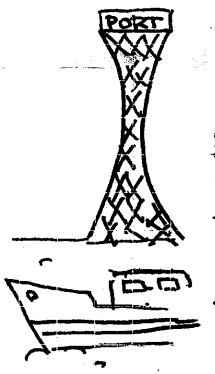
もう一つ・あまりにも発展性がないのである。昔から同じことをしているのではないか。これも性質上としてしまうと・勉強不足・努力不足とお叱りをうけるのもしれない。寧ろ・攻方のないことだろう。しかしそれ以外に私に出来ることは何だろう・現在の能楽部としての個性とでも言おうか何か足らない。

一昨年まで尻つぼみだった状態がここへ来て少し上向きかけている。昨年の新人生びちである。部長という役職についてから・まだこれといったことをしたわけでもない・だが・執行部の女達といつもして・自主性をもって・自分で考え行動しろと言った。また甚だ主的ではあるが学術的な面をもうすし進める心積りが技術部とも合致している。

幸い・今の雰囲気は明るく楽しい。事実・昨年はそれを度外に活動しこそした。しかし・それだけに終るのではなく・次の段階へ・もっと深くつき詰めた話し合いをもちたい。強い千年向を真摯な態度で臨み・魅力あるうづにと・思う次第である。

○第十二回○・B合同会のお知らせ

第十二回○B会を下記の通りの中心である神戸にて集合致します。一を時を8月9日(日)に・今・話ぱいとら・一を時をして南蛮漬にて・午前中会食にて集合致します。午前中に皆々様の楽しく歓談したいと思います。七月中に皆々様のお手元に・ご案内状を差しあげます。万障繰り合せの上・御参加をお待ち申して居ります。



記

土曰七日(土曜日)　十時半始め
於・観世会館

七文仁一郎十七回忌
追善能

能楽

木曽　観書　井上嘉久
半蔀　立花佐義　観世元正

葵上　宰相の君　片山博太郎
宰相淨小町　片山慶三郎

道成寺　橋本雅道

狂言　泥尼　茂山千作
橋本雅道
橋本雅史

○第十八回外文能○

十二月五日(土)　十二時始め
於・河村能舞台

能楽"夜鳥"

舞囃子　三番

何卒・御予定御き・御参加下さい。

橋本雅道

おめでとう◎ございます。



(御結婚)
5月2日・井上金子さん(S53卒)が結婚されました。

(御誕生)
4月4日・林芽子さん(S55卒)に長男・知仁(ともひと)君が誕生しました。
5月15日・文箱昌美さん(S55卒)に・次男雄司(ゆうじ)君が誕生しました。